

『 ぱんだより 』

※パンダからのお便りという意味で「ぱんだより」と名付けました。
 スパークスのアジア地域における情報発信レポート

第87号(2011年9月30日)お米から見た中国



農業大国としての中国

中国の人口は、2005年に13億人に達し、2011年では13.5億人へと増加すると予想*されています。また、農村部に在住する人口は約7割で、農業従事者も2011年では約2億9,500万人になると予想*されています。世界一の人口を養い、かつそれだけ多くの就業機会を提供するために、中国は国を挙げて農業生産に莫大な力を入れてきました。耕地面積は国土の約13%の約123百万ヘクタールで、米国(約173百万ヘクタール)やインド(約169百万ヘクタール)よりも小さいにもかかわらず、穀物自給率は100%を達成しています。米や小麦の生産量は世界一で、二位のインドよりも40%程度高く、果物類も約3倍の生産量になっています。かつては三角貿易の一角をなした綿花でさえも、インドの約2.5倍の生産量です。ほかにもピーナッツ、茶、豚肉、ジャガイモ、とうもろこしなどは世界一の生産量を誇っています。

農産物の生産量は、種の質、化学肥料の使用、灌漑、生産の機械化など、様々な要素が関わっています。中国やインドは、米国よりも農場の規模が小さく、平均規模でインドは約1.33ヘクタール、中国は約0.6ヘクタールしかなく、機械化もあまり進んでいません。しかし、中国は化学肥料の利用が進んでおり、農業関連の研究にも莫大な資金を投入した結果、米国、インドよりも少ない耕地面積で、世界一の農業生産高を達成しています(2010年現在)。中国はわずかな農地で、多くの人口を養っているということがいえます。

*IMF予想、2011年4月時点

世界各国の耕地面積

(単位：1,000ヘクタール)

	陸地面積	耕地面積	耕地比率
米国	914,742	173,200	18.93%
インド	297,319	169,320	56.95%
中国	932,749	122,543	13.14%
日本	36,450	4,628	12.70%
欧州	2,207,405	292,846	13.27%
世界全体	13,003,469	1,526,757	11.74%

出所：中国国家统计局(2008年現在)

**中国は農業国のイメージが強いですが、
 耕地面積が国土に占める割合は日本や欧州と同程度です。**

本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。





『ぱんだより』

スパークスのアジア地域における情報発信レポート



世界一の米の生産国

中国は特に主食であるお米(稲)の研究開発に力を入れています。世界の約20%にあたる人口を世界耕地面積のわずか約7%相当の土地で養うには、面積あたりの生産量つまり反収(田畑1反(約10アール)あたりの作物の収穫高)が特に重要になっています。

米の主な品種改良は、複数の品種を交雑させることで稲の矮小化を計り、種であるお米により栄養分が行き届くようにすることです。2系統の交雑は、1963年にインドネシアで米国人のHenry Beachell博士が初めて成功させ、3系統の交雑は1968年に日本人の新城長友博士が成功させました。しかし、そのどちらも研究室レベルに止まり、実用には達しませんでした。中国においては、1973年に中国のハイブリット稲の父といわれる袁隆平氏が、3系統の交雑を実現し、76年から中国全土で3系統の交雑稲を推進しました。その結果、中国の人口増加を上回るお米の増産を実現しました。

中国は、米の品種改良を常に続けています。直近のニュースでは、袁隆平氏は新たな品種改良に成功し、10アール当りの収量は1,350kgを超え、これは日本の平均収量(同約600kg)の2倍以上になります。この新しい品種が普及すれば、あと数十年で直面するといわれている食糧危機においても、心強い助けとなるでしょう。

国別米生産消費量

(単位:1,000ヘクタール)

	米生産量	米消費量
中国	138,000	136,500
インド	97,000	93,000
インドネシア	37,600	39,140
タイ	20,750	11,000
日本	7,680	8,250
世界	456,323	456,267

出所:USDA「World Market and Trade」2011年推計

国別米の反収

(単位:トン/ヘクタール)

	反収
米国	7.14
韓国	6.5
日本	6.44
中国	6.2
インドネシア	4.41

出所:FAO統計、1999年～2003年の平均収量

中国は米の生産、消費ともに世界一の大国

(編集後記)中国において、お米、小麦、とうもろこしの三大穀物の中で、最も消費人口が多いのは、お米です。今回の新たな品種改良により、お米不足が解消されることが期待されます。

※「ぱんだより」は、これまで月2回発行していましたが、今後月1回の発行とさせていただきます。引き続き、ご愛顧の程、よろしくお願い申し上げます。

(GDP48)

本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。